

日商簿記から診断士を目指す！ ステップアップセミナー

中小企業診断士は経営コンサルタント専門の国家資格で、日本経済を支える**中小企業のドクター**です。経営を中心にマーケティング、財務会計、店舗管理、法務など幅広く知識を学習し、企業の抱える様々な問題に対して経営者の方々と一緒に解決していく専門家です。

独立のみならず企業内においても経営能力は必要であり、管理会計などの計数管理も体系的に学習できる資格です。

本セミナーでは、日商簿記合格者・受験者（級を問わず）の方を対象に、中小企業診断士の試験制度の概要および中小企業診断士試験の「財務・会計」の本試験問題より、日商簿記で取得した知識が中小企業診断士の学習においてどのように役立つのか、財務諸表を使った経営分析の概要をご紹介します。

中小企業診断士になるためには、1次試験（マークシート形式）と2次試験（記述、口述形式）にパスする必要があります。1次試験では、経営コンサルタントとして必要な知識が幅広く問われ、2次試験では、事例企業が設定され1次試験で学習した知識等を使って事例企業の問題を解決する能力が問われます。なお、試験科目は、1次試験は全7科目あり、2次試験は全4科目です。

その中でも1次試験の科目である「**財務・会計**」は、2次試験にも直結する重要な科目です。すでに、皆さんは、日商簿記で学習した内容と重複しているため得点源となり、さらに時間的な余裕が生まれ他の科目の学習に十分割けることができるというアドバンテージがあります。現在も多くの日商簿記学習経験者の方が、**合格**を勝ち取っています（合格者の声もご参照ください）。



TAC中小企業診断士講座
中小企業診断士：高畑 光伸

次に、中小企業診断士の「財務・会計」の過去問題をご紹介します。

【平成 20 年度 第 2 問】

G 社では、先入先出法により商品の払出単価を計算している。ある商品の仕入と売上に
関する次の資料に基づいて、この商品の**月次売上原価**として最も適切なものを下記の解
答群から選べ（単位：円）。

月	日	摘 要	受 入			払 出	残 高
			数 量 (個)	単 価 (円)	金 額 (円)	数 量 (個)	数 量 (個)
7	1	前月繰越	50	400	20,000		50
	7	仕 入	80	400	32,000		130
	12	売 上				90	40
	19	仕 入	60	440	26,400		100
	26	売 上				70	30
	31	次月繰越				30	
			190		78,400	190	

〔解答群〕

ア 65,200

イ 65,680

ウ 66,021

エ 66,400

【平成 20 年度 第 3 問】

次の a～d のうち、**繰延資産に計上することが認められるもの**として最も適切なもの
の組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 株式交付費
- b 研究開発費
- c 社債発行差金
- d 創立費

〔解答群〕

ア a と b

イ a と d

ウ b と c

エ c と d

【平成 18 年度 第 2 問】

現金の手許残高と帳簿残高の相違について次の勘定記録（単位：円）のとおり**現金過不足勘定**で処理していたが、決算にあたって下記の原因が明らかになった。現金過不足勘定の原因不明の残高は雑損失または雑収入として処理する。決算仕訳の空欄 A に入る勘定科目名と空欄 B に入る金額として最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ（単位：円）。

現金過不足	
23,000	9,000

現金過不足の原因：

交通費 12,000 円を支払ったとき、誤って 21,000 円と記入していた。

消耗品費 19,500 円の支払いの記入が漏れていた。

決算仕訳：

（借）（ ）	9,000	（貸）（ ）	9,000
（借）消耗品費	19,500	（貸）現金過不足	19,500
（借）	A	（貸）（ ）	B

〔解答群〕

ア	A：現金過不足	B：14,500
イ	A：現金過不足	B：24,500
ウ	A：雑収入	B：24,500
エ	A：雑損失	B：3,500

（解答）

【平成 20 年度 第 2 問】	ア
【平成 20 年度 第 3 問】	イ
【平成 18 年度 第 2 問】	エ

「財務諸表を作る」から「財務諸表を読み解く」へ

財務諸表は、企業の経済活動を会計的側面から測定し、その結果を要約して表示したものです。**経営分析を行うことによって、分析対象である企業の現状、特徴、強みと弱み、問題点などを知ることができます。**また、測定結果としての数値はそれ単独としても重要な意味をもちますが、別の何らかの測定結果と比較することによってより有用な情報を得ることができます。

そこで、経営分析は、一般に、比較という行為を通じて行われます。比較対象としては何を使用するかにより、時系列比較、同業他社比較などがあります。

経営分析のプロセスは、問題点を端的に示す経営指標を選択し、経営指標値を計算、問題点の記述、改善策の記述という手順を踏みます。

代表的な経営指標

	経営指標		式
収益性		売上高総利益率	$\text{売上総利益} \div \text{売上高} \times 100 (\%)$
		売上高営業利益率	$\text{営業利益} \div \text{売上高} \times 100 (\%)$
		売上高経常利益率	$\text{経常利益} \div \text{売上高} \times 100 (\%)$
安全性	短期	流動比率	$\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 (\%)$
		当座比率	$\text{当座資産} \div \text{流動負債} \times 100 (\%)$
	長期	固定比率	$\text{固定資産} \div \text{自己資本} \times 100 (\%)$
		固定長期適合率	$\text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 (\%)$
	調達構造	負債比率	$\text{負債} \div \text{自己資本} \times 100 (\%)$
		自己資本比率	$\text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100 (\%)$
効率性		総資本回転率	$\text{売上高} \div \text{総資本} (\text{回})$
		売上債権回転率	$\text{売上高} \div \text{売上債権} (\text{回})$
		棚卸資産回転率	$\text{売上高} \div \text{棚卸資産} (\text{回})$
		有形固定資産回転率	$\text{売上高} \div \text{有形固定資産} (\text{回})$

以下の 2 つのハンバーガー店を分析しましょう！（「11 年アプローチテキスト」より）

A 社 ハンバーガーをできるだけ安く、早く販売することが特徴である。 単位：百万円

A 社の損益計算書

売上	200
売上原価	140
売上総利益	60
販管費	40
営業利益	20
営業外費用	0
経常利益	20
特別損失	0
税引前当期純利益	20
税金	8
当期純利益	12

A 社の貸借対照表

流動資産		流動負債	
・現金	80	・買掛金	50
・商品	20	固定負債	
固定資産		・長期借入金	0
・建物等	150	純資産	
		・資本金	200
計 250		計 250	

B 社 手作りでおいしいハンバーガーを販売することが特徴である。 単位：百万円

B 社の損益計算書

売上	200
売上原価	120
売上総利益	80
販管費	52
営業利益	28
支払利息	8
経常利益	20
特別損失	0
税引前当期純利益	20
税金	8
当期純利益	12

B 社の貸借対照表

流動資産		流動負債	
・現金	15	・短期借入金	120
・商品	60	固定負債	
固定資産		・長期借入金	15
・建物等	75	純資産	
		・資本金	15
計 150		計 150	

	A 社	B 社
総資本経常利益率	8%	13.3%
売上高総利益率	30%	40%
売上高営業利益率	10%	14%
売上高経常利益率	10%	10%
流動比率	200%	62.5%
自己資本比率	80%	10%

●さて、この経営分析の数値から、どのようなことがいえるか、どちらの企業が健全なのか、などについて考えてみよう。

【解答例】

総合力について

総資本経常利益率は、B 社の方が高い。A 社と B 社はともに同じ売上高であるが、総資産は B 社の方が少ない。つまり、B 社は、A 社に比べ少ない資産で売上高・利益を獲得しているといえる。

収益性について

売上高総利益率と売上高営業利益率は、B 社の方が高い。B 社の方の営業活動が優れているといえる。しかし、B 社は借入金にかかる支払利息があるため、経常利益が A 社と同額である。

安全性について

安全性は、A 社の方が優れているといえる。流動比率が 200% で、短期的な支払い能力があり、資金繰りは良好である。自己資本比率が高く債務超過に陥るリスクは小さい。

一方、B 社は、流動比率が 100% を下回っているため、短期借入金の返済期日になってもそれを返済する原資がない。金融機関に猶予を申し入れるなど必要になる。さらに B 社は、自己資本比率が低く借入金に依存して資金を調達している。そのため、支払利息の負担が大きいという前述の収益性が低い原因を引き起こしている。

日商簿記から診断士へステップアップした合格者の声

Winner 笠置 晶さん

私は、経営全般について学ぶことができる中小企業診断士に興味を持っていましたが、業務上、財務会計の知識も必要に迫られたため、先に日商簿記の学習を行い、日商簿記試験に合格後、いよいよ中小企業診断士の学習を開始しました。日商簿記の知識が診断士1次試験の「財務・会計」、2次試験の「事例」に活かされたため、今思えば、**先に日商簿記を学習したことが、結果的に中小企業診断士合格への近道になったような気がします。**

Winner 豊田 明宏さん

私は大学時代に日商簿記を学習していました。そんな中で、**簿記について学問的な側面だけでなく実務的な側面からもアプローチして学びたい**、と思ったのが診断士の学習を始めた最初の理由です。実際に、TACに通い講義を聴いているうちに、実務経験のある講師の方々の話に非常に興味が沸いてきて、実務の世界にどんどん引き込まれていくようになりました。

Winner 青木 友美さん

私は、経営の基礎ということで日商簿記の勉強をしていたのですが、1級の学習まで行ったところで挫折しました。というのも、**私は計算がしたいのではなく、何のために計算しているのか、またその結果から何が見えるのか、ということを知りたいのだと気づいたからでした。**そんな時、中小企業診断士という資格と出会いました。経営を広い視点で見て、その結果から未来を見据えることのできる中小企業診断士は、とても魅力的でした。

Winner 斉藤 初和さん

以前に日商簿記2級を取得していたため、「財務・会計」に気負いがなかったことが、私にとって有利な点であったと思います。診断士の1次試験は7科目あるため、覚えることが多く、仕事とも両立しながら限られた時間の中で学習を進めなくてはなりません。そんな中、既に知識のある1次試験科目があることは、大変心強かったです。また、私は以前に簿記の資格取得の勉強を行ったときの経験から、学習する時間の確保や予習・復習、問題練習等の時間配分等、勉強を行うペース作りをスムーズに行えました。

Winner 大澤 昌範さん

診断士の2次試験において言えることは、「事例」の対策を周到に行うことが合格への鍵だと思います。そのために私が行ったことは、日商簿記の取得でした。**特に、本試験直前の6月の日商簿記に合格したことは自信にもなり、「事例」でいい点を取って合格するんだと、胸を張って本試験会場に臨むことができました。**

Winner 安蔵 由紀子さん

私は、一度診断士試験に不合格となりました。その屈辱を果たすためにも、財務力強化が必至でした。そのために、日商簿記検定の取得に励みました。数ヶ月とはいえ、中小企業診断士講座と日商簿記検定講座を受講するのは時間的にも体力的もきつかったですが、**日商簿記検定のおかげ財務諸表が読みやすくなったのは事実です**。また、資格を取得したという自信もつき、色々な相乗効果が得られました。

日商簿記・診断士ダブルライセンス保有 実務家インタビュー

「ステップアップで新しい世界が広がった！」



毛利 真利子 さん

診断士へステップアップしたことで...

簿記の勉強では、単純に仕訳ができる、簿記の一巡の流れ・貸借対照表や損益計算書のひな形は知っている、といったどちらかと言うと形式的な面での理解でした。そこから**診断士の勉強をした事で、貸借対照表や損益計算書を読み込み分析するという知識が得られました**。その結果、簿記のみの学習で終わっていたら理解できなかったであろう、自社における経理分析への理解、数字への意識がとても強まったと思います。さらに、難関国家試験へ努力してきたと言う『経験』と合格と言う『結果』により自信がついた事、多少大変な事でも「とりあえずやるしかない！！」と前向きに積極的になれたと思います。また、私はストレート合格していませんので、打たれ強くもなった！？と思います（笑）

それから、簿記の勉強ではどちらかと言うと個人で黙々と勉強をするという感じですが、診断士では学習期間中から多くの勉強仲間との出会いがあり、今でも STF-1 というグループを作り隔月で勉強会開催などのお付き合いがあります。さらに**合格後にも TAC 生との新たな出会いはもちろん、他校の方や、先輩診断士先生との出会いと交流の場は広がるばかりです！**嬉しい事に私は、TAC で勉強を開始した当時同じ教室に通っていた方達と合格後偶然再会しました。お一人は先に診断士に合格なさっていて、ある研究会で再会し「おめでとう！！」と声を掛けていただき、もうお一人は合格祝賀会でたまたまお会いして「うわー！お互い頑張っていたんだね！！」と。そしてそんな縁で去年はその方々と一緒に MPA という 18 人のグループで企業訪問や合宿なども行いました。

合格してから早一年。現在もまた勉強仲間から先輩診断士の先生を紹介していただき、土日を中心として実際に企業を訪問し、診断を行う勉強もさせていただいています。

簿記の学習が診断士試験の学習に活かせる！

試験対策上のメリットとしては、診断士試験では最重要科目である財務会計への理解度が全くの初学者と比較した場合にアドバンテージがあることが言えると思います。一次の試験科目だけでも 7 教科（私の時は 8 教科でしたが）で、それを約 1 年で学んで試験に挑むのですが、1 教科当りの授業のコマ数は多くても 10 あるかないかです。次から次に新しい事を習っていく中、予習に復習にと時間はいくらあっても足りない。もちろん TAC の診断士講座の先生方は全ての教科に対して初学者でも分かるように優しく丁寧に教えてくださりますが（ほとんど、どの科目も当然受講生の多くは初学者です）それでもやはり、知識の理解・定着は自身の努力が必要になります。簿記の勉強をしていた事は、まず、「簿記の仕組み自体が抵抗なく入ってくる」これだけでも有利です。それから、結構苦手分野とされる、精算表も苦労せずにすみます。また、簿記 2 級まで勉強されていれば、工業簿記も学習しますので、原価計算も得意分野の 1 つにできると思います。

ただ、簿記試験と違う点として 1 次試験は「暗算」と言う事。電卓を使わずに効率よく解く方法を見つけ出すのは大変でした。また、簿記 2 級まででの知識では、診断士試験で頻出科目となっている CF 計算書や、設備投資の経済性計算などのファイナンス分野、さらに経営分析までは学びませんので、その辺りの知識の理解・定着には初学者の方同様多くの時間を費やし、努力をする必要がありました。それでもやはり、簿記の知識があった事は財務会計で多いに活かせたと確信しています。

最後に...まずは挑戦を！！

正直、診断士へのステップアップの魅力はここでは書ききれないほどです。勉強仲間の中には、希望の職への転職や独立、新たな道への挑戦を続けている方もいます。**ステップアップする事で素晴らしい世界がますます広がります。挑戦してみなければその世界はどんな物なのか見る事ができません。是非挑戦して体験してください！！**

**学問的な会計から、使える会計へ！
みなさんがチェンジできる資格です！
講師スタッフ一同お待ちしております！**